

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220202	研究期間	平成26年度～平成30年度
研究課題名	過去120年間におけるアジアモンスーン変動の解明	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	松本 淳（首都大学東京・大学院都市環境科学研究科・教授）

【平成29年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、モンスーンアジア各地の1950年以前の気象データを紙媒体等からデジタル化し、120年間以上にわたる変動を詳細に分析しようとするものである。デジタル化作業は概ね順調に進捗しており、旧英領インドなど、作業が難航した部分もすでに問題は解決され、アジア各地における降水特性や台風、水稻栽培等の長期変動について数多くの新しい知見を得ている。その成果については、多数の国際学術雑誌に掲載するとともに、新聞発表等も行っている。</p> <p>現時点では、東アジアに関するデータ分析が、日本を対象とするものを中心としているため、今後は分析対象の地域的範囲を拡大して、アジア全域での分析との接続を図ることが期待される。</p>		